

すだちのスマート農業 実演会

03月15日 17時19分



県特産のすだちを栽培する農家の負担軽減につなげてもらおうと最先端の技術を活用して作業の効率化を図る「スマート農業」の実演会が15日、神山町で行われました。

徳島県は、すだちの生産量が全国一ですが、農家の高齢化が進み、

作業の省力化が課題となっています。

こうした中、負担軽減や生産技術の向上につなげてもらおうと神山町のすだち農園で、農家や県の関係者などおよそ70人が参加して最先端の技術を活用した農業の実演会が開かれました。

はじめに、8アールほどの区画でドローンを使った農薬散布の実演が行われ、わずか2分ほどで散布が終わると、参加者たちは葉の裏まできちんと液体が行きわたっているか確認していました。

続いて、腰や腕の動きをサポートする2種類のアシストスーツの実演が行われ、実際にスーツを身につけて重さ20キロほどのケースを持ち上げ、楽に持ち上げられる感覚を確かめていました。

最後に自動草刈り機が紹介され、機械が自動的に木などをよけながら草を刈る様子を見学しました。

参加した農家の男性は「夏場の作業などは体力的にも厳しいので、技術が発達して導入できたら楽になるなと思いました」と話していました。

県農林水産部徳島ブランド推進担当の新居里菜主事は「徳島特産のすだちですが、農家の高齢化が進んでいるので、少しでも作業を省力化して、徳島のすだちを未来に残していけるように頑張っていきたい」と話していました。